**広島城大菊花展**

花の愛好家たちが秋には広島に集まって、毎年一度の広島城の菊花展を楽しみます。このイベントは10月末から11月初めに開催され、現地の栽培者にとっては受賞した菊を展示して自慢する機会となります。城外の敷地で開催されるこのフェスティバルでは、装飾を凝らした花のアレンジメントやジオラマ、菊の販売、栽培ワークショップ、そして盆栽の展示などが楽しめます。

日本では菊は秋の象徴であり、8世紀に中国から入って来て以来、重要な文化の一部となっています。菊花の栽培が宮廷でとても流行し、天皇が16花弁の菊花を自分の紋に採用するほどでした。この紋は今でも日本の璽符として使われており、パスポートや50円玉にも見られます。実際、天皇の玉座のことを「菊の玉座」と呼びます。伝統的に、陰暦で9番目の月の9番目の日は菊花を楽しむ時とされています。

展示会には毎年2000以上の菊花が展示され、食べ物の露店や伝統的な日本の音楽の演奏なども楽しむことができます。